

外郭団体ミッション遂行評価票

【令和2年度取組結果】

団体名	公益財団法人 北九州市環境整備協会	所管課	環境局 業務課
-----	-------------------	-----	---------

団体に対するミッション ごみ収集部門では、市民サービス水準を維持するとともに、収集コスト面で民間委託業者を牽制する役割を担う。 検査分析部門では、市内唯一の浄化槽法定検査機関としてその役割を着実に担うとともに、環境学習・啓発・国際協力事業を積極的に展開する。	行財政改革大綱における見直し内容 現在、同団体は、環境保全への貢献、ごみ収集における市民サービスの水準の維持、収集コスト面での民間への牽制などの役割を担っている。 今後、家庭ごみの収集業務の全面民間委託化を進める中で、委託化の進捗状況を十分に見極めながら、同団体のあり方や役割を検討していく。 検査分析部門のうち、民間と競合する部分については、今後のそのあり方を検討する。
--	--

ミッションに基づく中期計画								
3~5年後に目指す状態	(1) ごみ収集部門では、収集コスト面での民間委託業者を牽制のほか、市と連携して安定的なごみ収集を支える役割を担う。 (2) 検査分析部門では、環境学習・啓発・国際協力事業を積極的に展開して、参加者数、育成技術者数の増加を図る。							
主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）							
	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R1 実績	R2 目標 実績		R3 目標	R4 目標
ごみ1トンあたりの収集運搬経費	<協会> 14,722円 <民間> 16,183円	<協会> 14,891円 <民間> 16,400円	<協会> 14,528円 <民間> 16,140円	<協会> 14,643円 <民間> 15,781円	民間業者より安価	集計中	民間業者より安価	民間業者より安価
評価・提言の周知状況（自然環境の調査研究）	HP掲載	HP掲載	HP掲載	HP掲載	HP掲載	HP掲載	HP掲載	HP掲載
子どもの参加数（環境学習事業）	531人	365人	299人	327人	450人	9人	450人	450人
開発途上国の育成技術者数（実績）	246人 (H21年以降)	56人	35人	45人	80人	13人	80人	80人

ミッションの遂行状況の評価（令和2年度）			
団体における評価 ごみ収集部門では、収集コストを民間より安く抑えることで民間業者を牽制する役割を果たせたと考えられる。また、重大事故の発生もなく、安定した収集体制を維持することが出来た。検査分析部門では、新型コロナウイルス感染症の影響により環境学習事業の参加者数及び開発途上国の育成技術者数を伸ばすことが出来なかった。	市の評価 ごみ収集部門では、コストを抑制すると共に、適正な収集運搬業務を行い、また重大な事故も起こさず、市民サービスの水準を維持している。 検査分析部門では、新型コロナウイルス感染症の影響により環境学習の参加者数及び開発途上国の育成技術者数共に目標に達していない。今後はウィズコロナ・コロナ後を見据えた取り組みが必要である。		
今後の課題及び見直し内容（案） ごみ収集部門では、引き続き職員研修等により安全運転を徹底し事故及び労災を防止することで更なる収集体制の安定を図る。検査分析部門では、広報・営業努力により参加校増を図る。また、海外協力事業に関しては新規案件の提案を行い、取り組みを強化していく。	団体への改善指導内容（案） ごみ収集部門では、コストを鑑みながら引き続き市民サービスの水準を維持するよう指導する。 検査分析部門では、環境学習の参加者数及び開発途上国の育成技術者数共に、ウィズコロナ・コロナ後を見据えた取り組みを図るよう指導していく。		

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況	
見直しの分類	—
ごみ収集及び検査分析両部門において、受注増及びコスト削減に努め効率的な体制を維持したため、事業収支全体では黒字決算となった。今後は、検査分析部門において受注の拡大など新規事業開拓等営業活動を強化する。	